

# 研究トピックス

## イチジクに樹体ジョイント仕立てを導入

イチジクの樹体ジョイント仕立ては、隣接する樹の主枝を連結して直線状の集合樹にする手法で、早期成園化や樹勢の安定化が期待されます。現在、接ぎ木手法や植栽間隔等、樹体ジョイント仕立ての導入に向けた技術開発を行っています。この技術は、ナシの早期成園化や栽培管理の省力・効率化を目的に開発された技術を応用したものです。(園芸研究部)



本研究は「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」で実施しました。

## 「きぬあかり」の新施肥法を開発中

農業総合試験場が開発した小麦新品種「きぬあかり」について、よりコシの強いうどんができるよう、小麦粉のタンパク質を高める施肥法を開発しています。タンパク質含量向上には穂が出た直後の窒素施肥(実肥)が有効ですが、大変労力がかかります。そこで、最適な生育に合わせた時期に窒素が溶け出す肥料を播種と同時に施肥し、実肥の労力を削減することを目指しています。(作物研究部)

## 愛知用水受益地の水田における減水深

農業総合試験場では、農業用水の適正な用水量を把握するため、愛知用水の受益地水田で1日に自然に減る量(減水深)を5年間にわたり測定しました。

愛知用水では、減水深の計画値が地域毎に定められていますが、今回の計測した減水深の値は、計画値と異なる場合があります。この結果は今後、基礎データとして、用水量の需給計画に活かされます。(環境基盤研究部)

## 蒸気による新たな帰化アサガオ除草技術を開発中

大豆ほ場で問題となっている帰化アサガオ類の新たな除草法を検討しています。大豆作後にはほ場表面を専用作業機で蒸気処理することにより、帰化アサガオ類種子を駆除できます。現在、作業能力向上に向けた試験を行っています。

(作物研究部)



自走式蒸気除草機JJ-5.0

本研究は「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」で実施しました。

## LEDを利用したイチゴの電照

クリスマスに向けて生産するイチゴ栽培では、イチゴが冬期に休眠しないように、電照を行います。省エネ・CO<sub>2</sub>削減に向けて、電照に使う光源としてLEDを利用する技術を開発しました。

波長620~660nmのLED(赤色光)は休眠抑制効果が高く、白熱灯に比べて、約7分の1の消費電力で、同等の生育・収量が得られます。

(園芸研究部)



色とりどりのLEDを使った試験の様子

本研究は農工連携研究促進事業で実施しました。

### 研究短報第107号

編集・発行 愛知県農業総合試験場

〒480-1193 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-1  
TEL 0561-62-0085 内線323(企画普及部)  
FAX 0561-63-0815  
<http://www.pref.aichi.jp/nososi/>